# ラック用コンセント　法規と施工方法

**ラック用コンセントのプラグ受口の定格電流は、100V用は１口15A、200V用は１口10A(C13)です。**
**よって法規により、ブレーカの付いていないラック用コンセントを施設する場合は、下記の分岐回路に接続してください。**

- **製品本体の定格電流が15Aの場合・・・15A分岐回路または20A配線用遮断器分岐回路**
- **製品本体の定格電流が20Aの場合・・・20A配線用遮断器分岐回路**

**★電気設備の技術基準の解釈(抜粋)**

【低圧分岐回路等の施設】

第149条

1　低圧分岐回路には、次の各号により過電流遮断器を施設すること。

一　低圧幹線との分岐点から電線の長さが3m以下の箇所に、過電流遮断器を施設すること。

二　前号の規定により施設する過電流遮断器は、各極(多線式電路の中性極を除く)に施設すること。ただし、次のいずれかに該当する電線の極については、この限りでない。

イ　対地電圧が150V以下の低圧電路の接地側電線以外の電線に施設した過電流遮断器が動作した場合において、各極が同時に遮断されるときは、当該電路の接地側電線。

2　低圧分岐回路は、次の各号により施設すること。

一　第二号及び第三号に規定するものを除き、次によること。

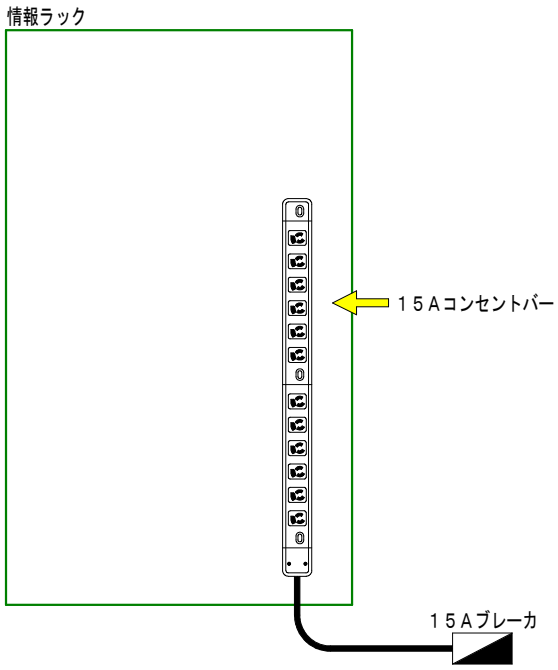
イ　第1項第一号の規定により施設する過電流遮断器の定格電流は、50A以下であること。

ニ　低圧分岐回路に接続するコンセントは、149－3表に規定するものであること。

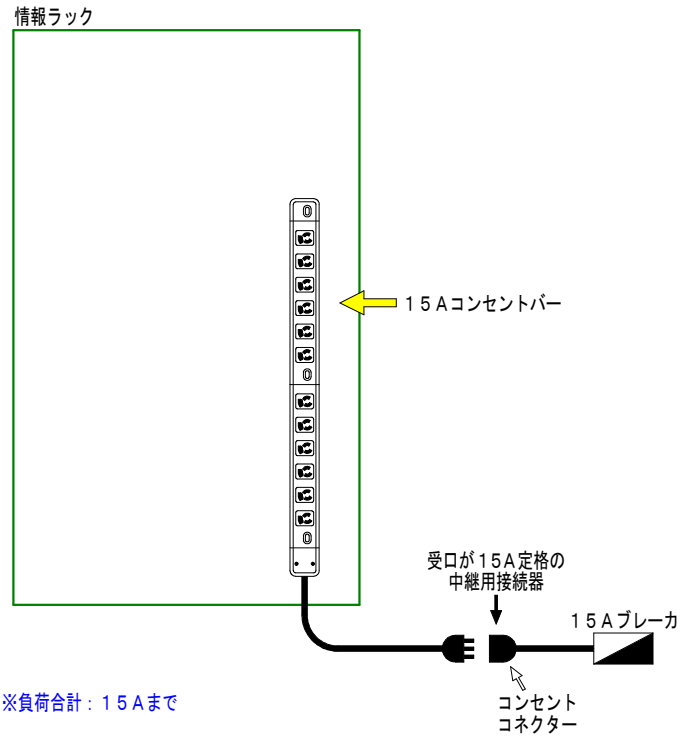
**149－3表**

| 分岐回路 | 施設できるコンセント |
|---|---|
| 15A 分岐回路 | 定格電流が15A 以下のもの |
| 20A 配線用遮断器分岐回路 | 定格電流が20A 以下のもの |
| 20A 分岐回路<br>(配線用遮断器を除く。) | 定格電流が20A のもの<br>【定格電流が20A未満の差込みプラグが接続できるものを除く。】 |
| 30A 分岐回路 | 定格電流が20A 以上　30A 以下のもの<br>【定格電流が20A未満の差込みプラグが接続できるものを除く。】 |
| 40A 分岐回路 | 定格電流が30A 以上　40A 以下のもの |
| 50A 分岐回路 | 定格電流が40A 以上　50A 以下のもの |

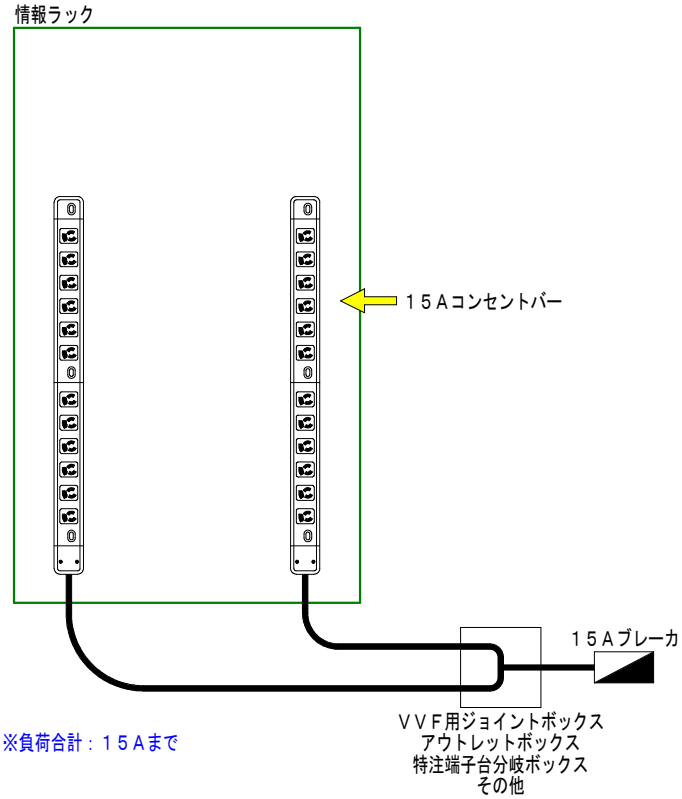
# １５Ａ分岐回路の場合の施設例（1/2）




※負荷合計：１５Ａまで

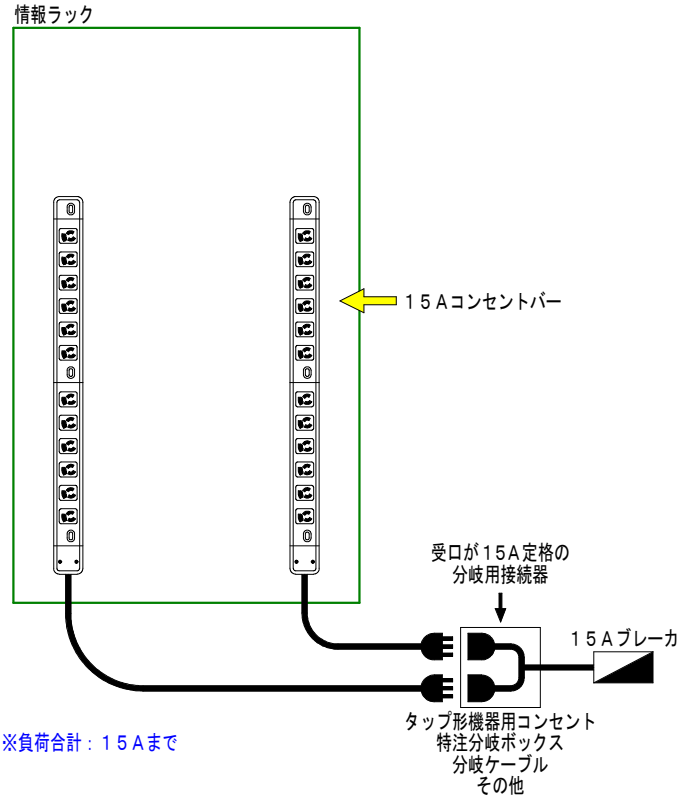



※負荷合計：１５Ａまで



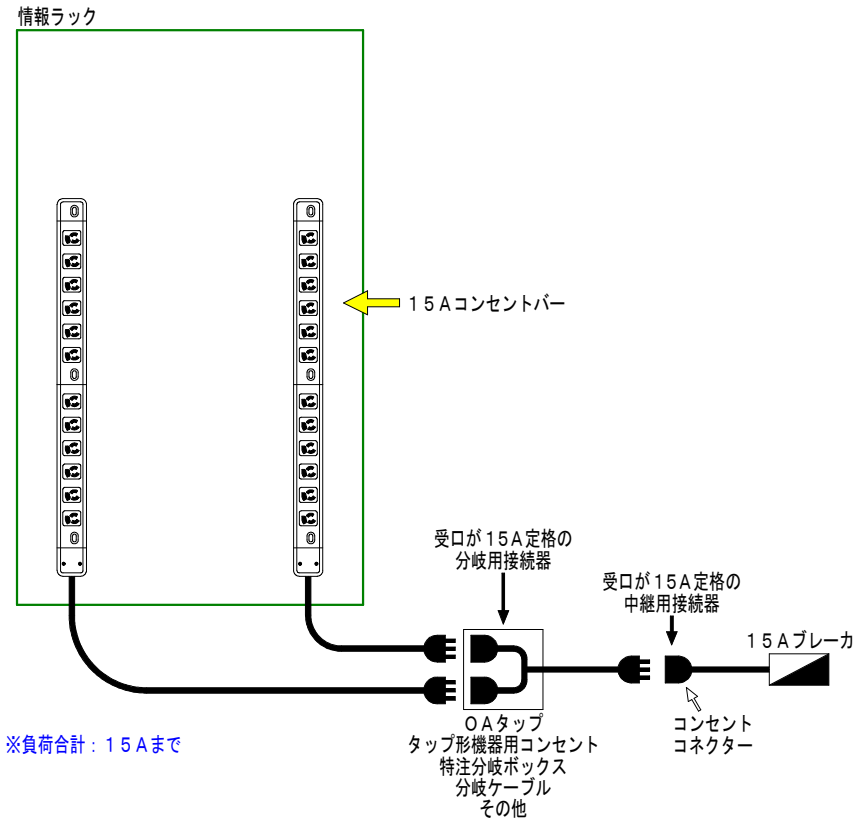

※負荷合計：１５Ａまで

（備考）ＶＶＦ用ジョイントボックスにおいて、
絶縁カバー付３心棒状形圧着端子を
使用すると、ＶＣＴが接続できます。



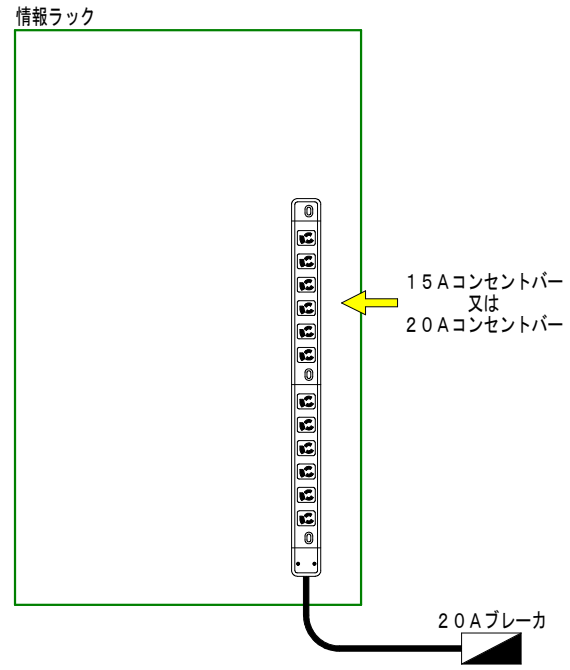

※負荷合計：１５Ａまで

# １５Ａ分岐回路の場合の施設例（2/2）

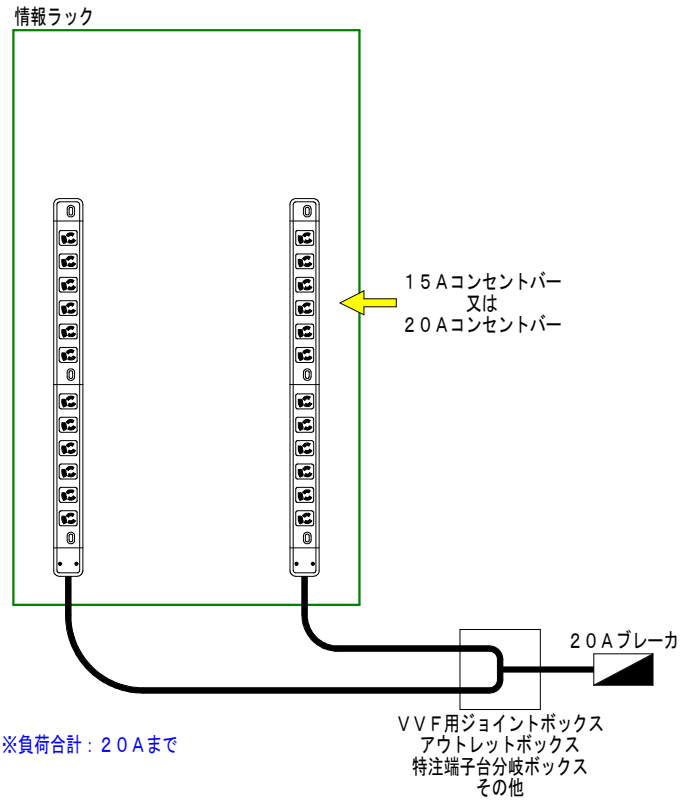



(注意)タップは、ブレーカに接続された電線に
直接繋ぐこと内線規程上、違反となります。
タップを使用する場合は、必ず接続器
を介して施設してください。

# ２０Ａ分岐回路の場合の施設例（1/2）

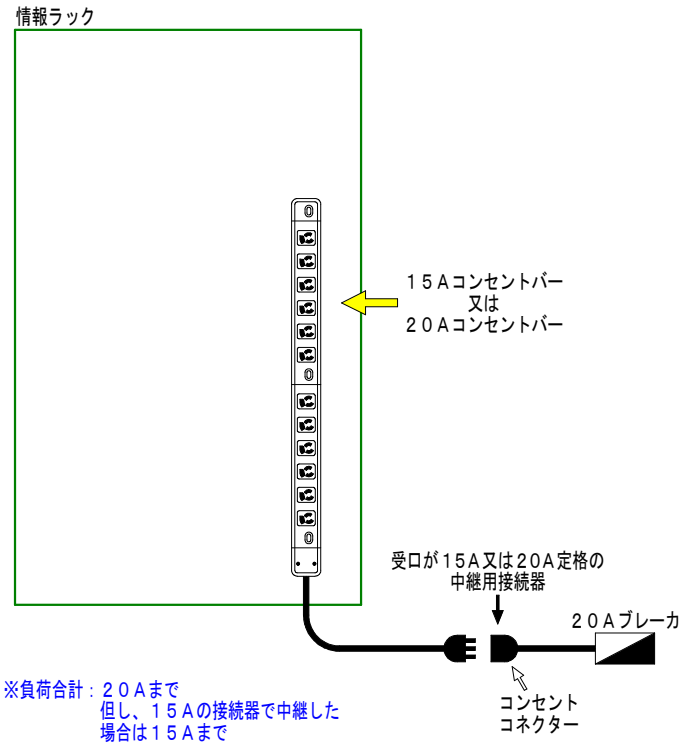



※負荷合計：定格１５Ａ製品の場合は、１５Ａまで
定格２０Ａ製品の場合は、２０Ａまで

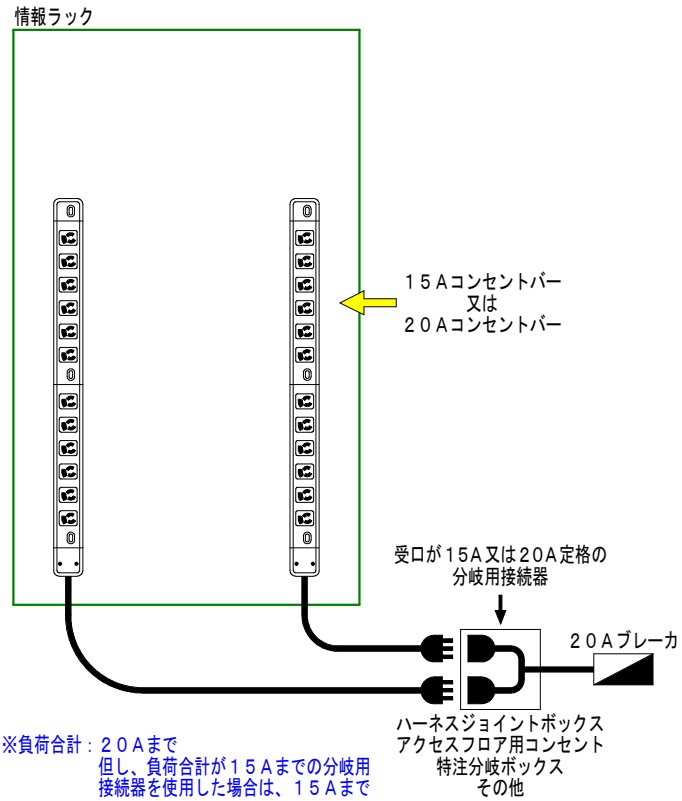



※負荷合計：２０Ａまで

（備考）ＶＶＦ用ジョイントボックスにおいて、
絶縁カバー付３心棒状形圧着端子を
使用すると、ＶＣＴが接続できます。

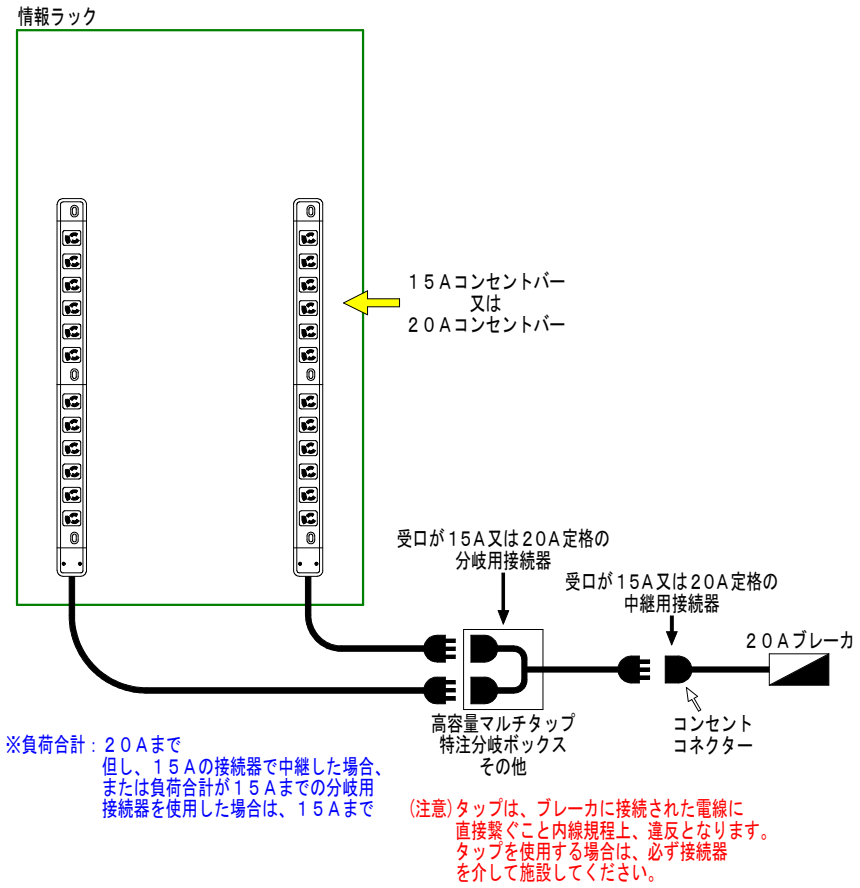



※負荷合計：２０Ａまで
但し、１５Ａの接続器で中継した
場合は１５Ａまで

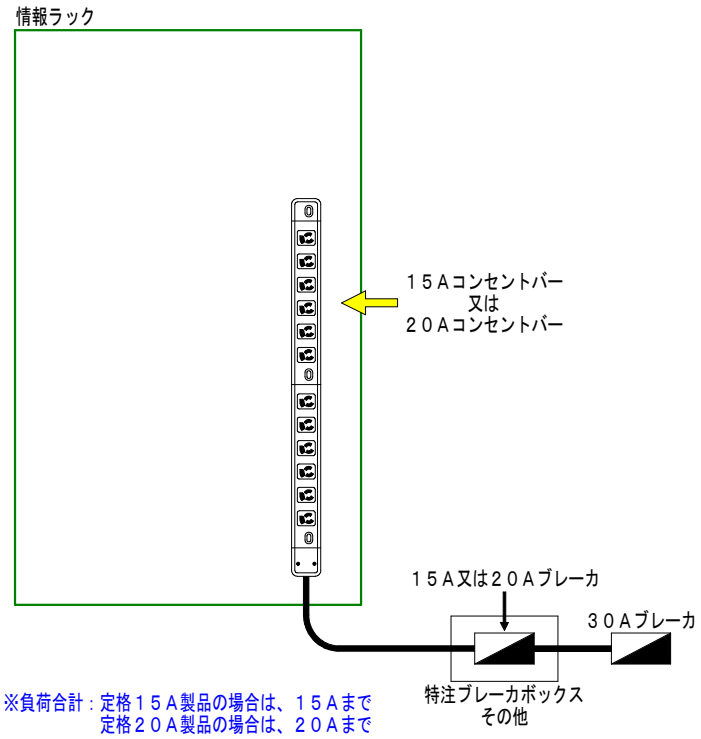



※負荷合計：２０Ａまで
但し、負荷合計が１５Ａまでの分岐用
接続器を使用した場合は、１５Ａまで

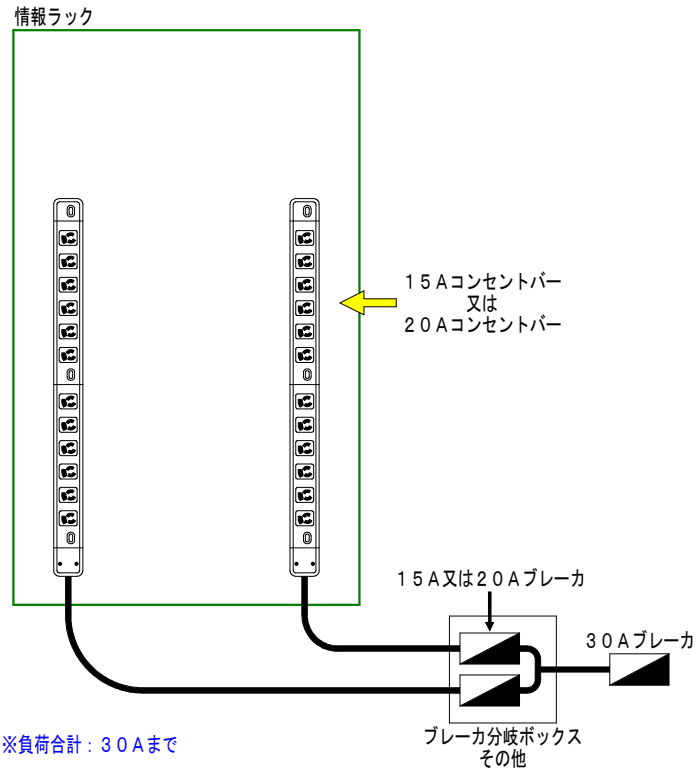
# ２０Ａ分岐回路の場合の施設例（2/2）



# ３０Ａ分岐回路の場合の施設例（１/３）

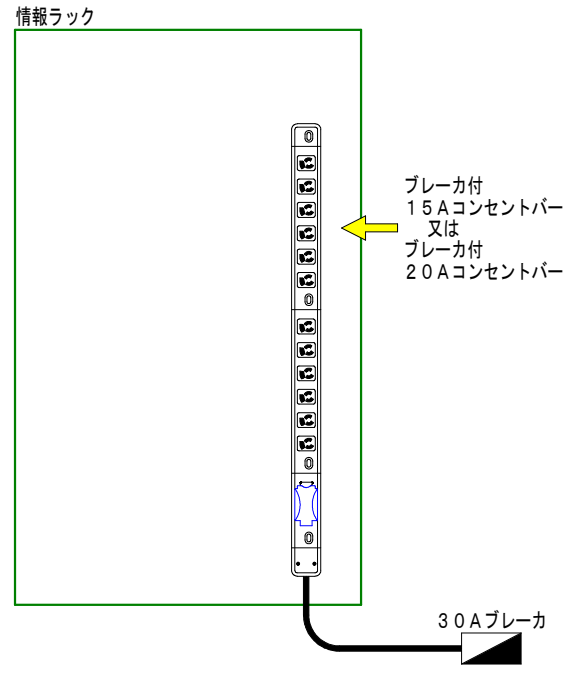



※負荷合計：定格１５Ａ製品の場合は、１５Ａまで
定格２０Ａ製品の場合は、２０Ａまで

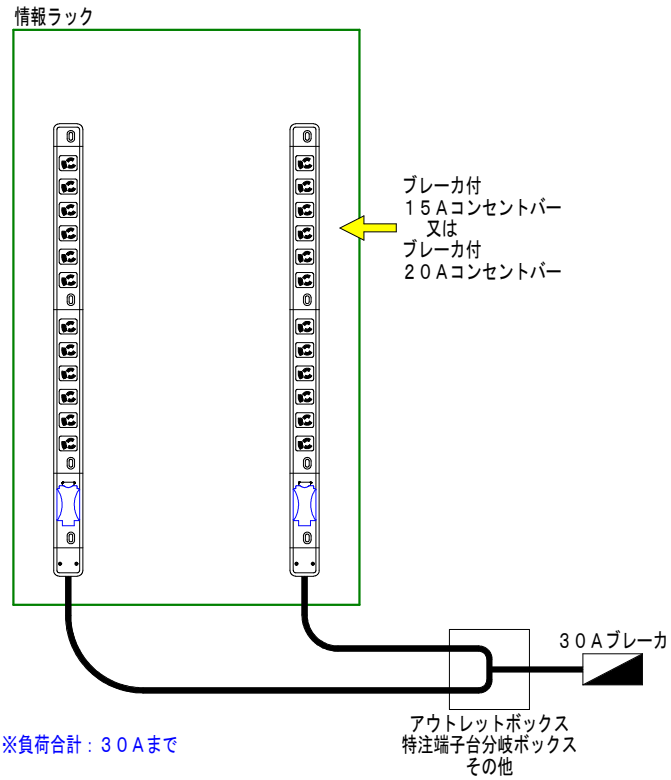



※負荷合計：３０Ａまで

【注意】法規により、ブレーカの付いていないラック用コンセントを施設する場合は、下記の分岐回路に接続して下さい。
- 製品本体の定格電流が１５Ａの場合・・・１５Ａ分岐回路または２０Ａ配線用遮断器分岐回路
- 製品本体の定格電流が２０Ａの場合・・・２０Ａ配線用遮断器分岐回路

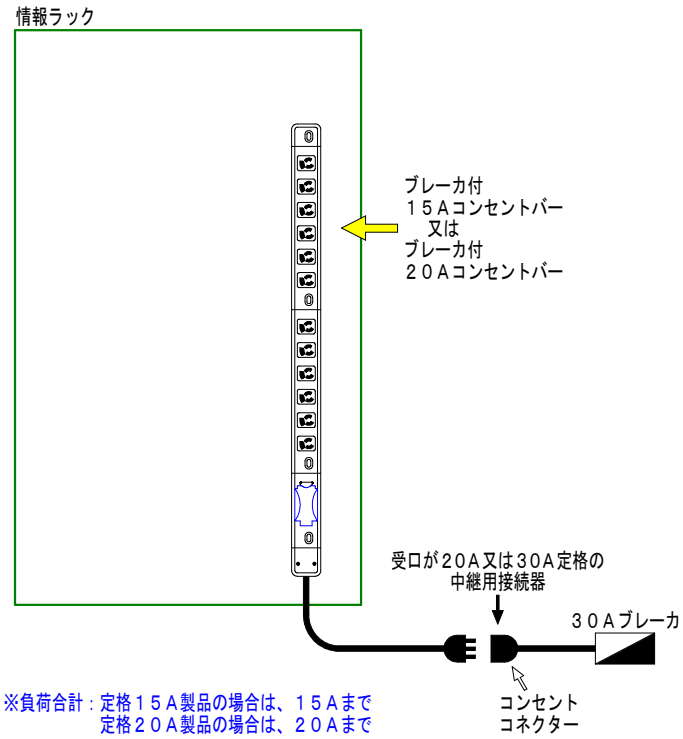



※負荷合計：定格１５Ａ製品の場合は、１５Ａまで
定格２０Ａ製品の場合は、２０Ａまで

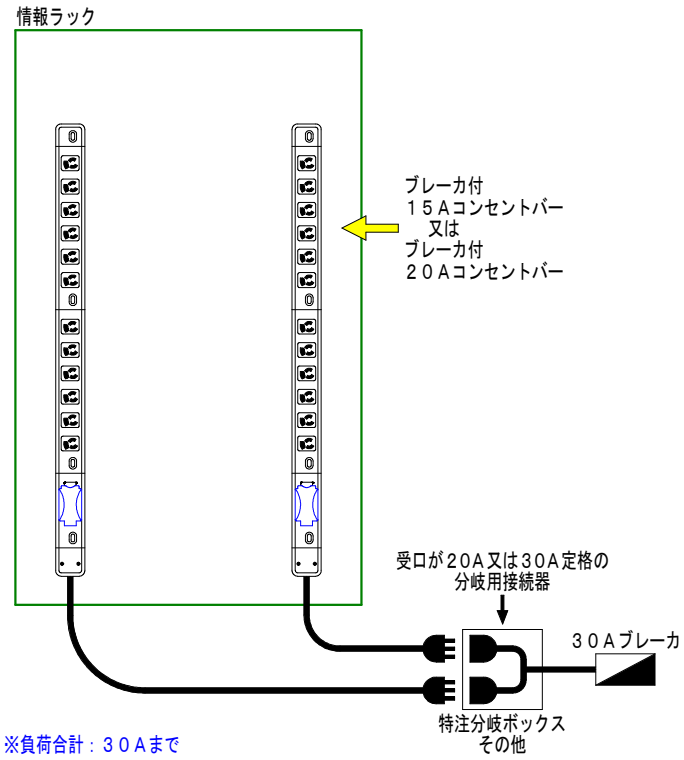



※負荷合計：３０Ａまで

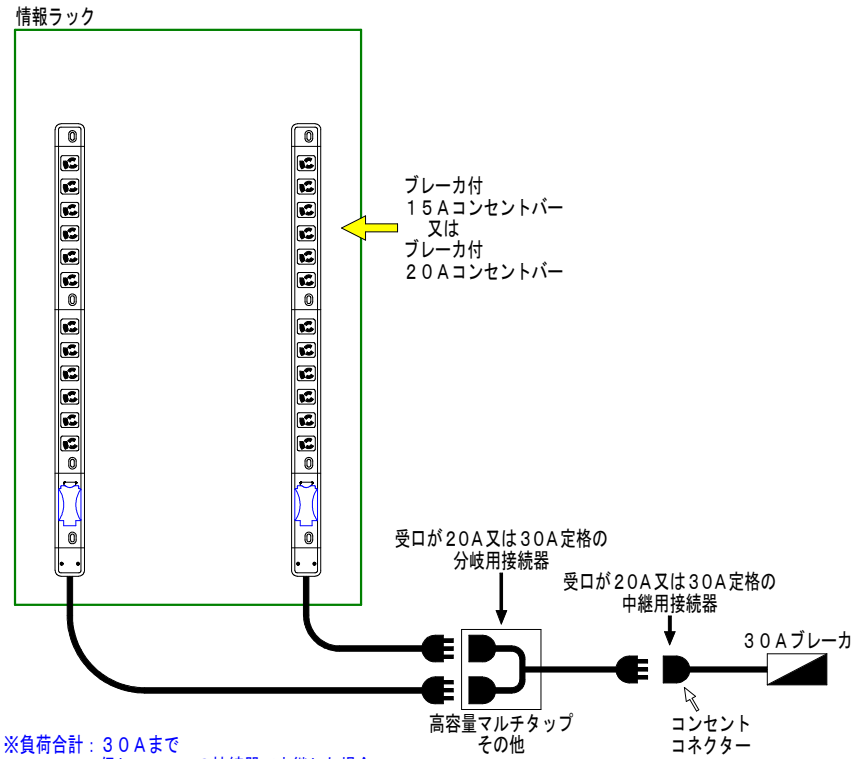
# ３０Ａ分岐回路の場合の施設例（２/３）




※負荷合計：定格１５Ａ製品の場合は、１５Ａまで
定格２０Ａ製品の場合は、２０Ａまで



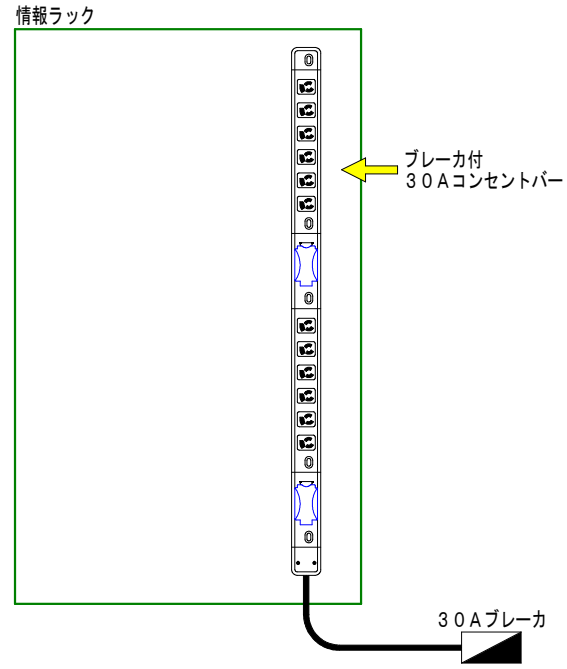

※負荷合計：３０Ａまで



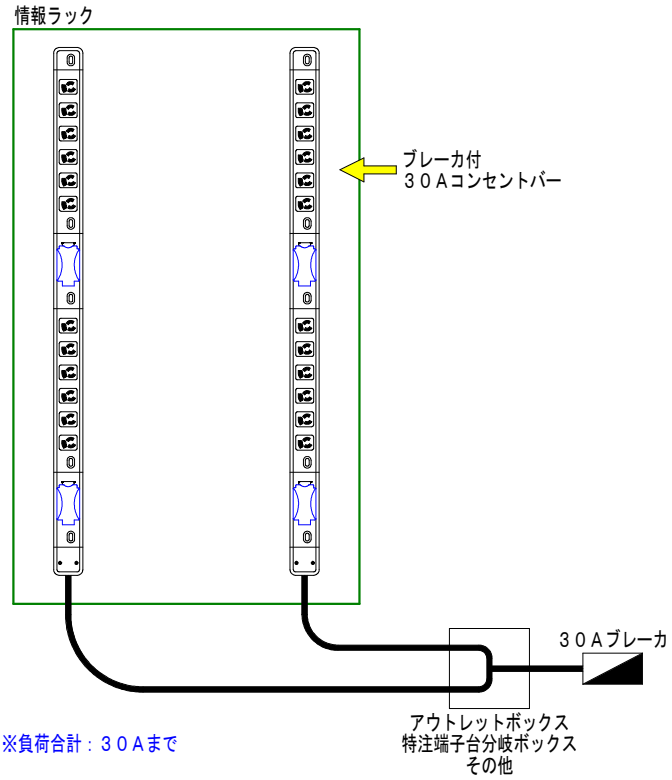

※負荷合計：３０Ａまで
但し、２０Ａの接続器で中継した場合、
または負荷合計が２０Ａまでの分岐用
接続器を使用した場合は、２０Ａまで

(注意)タップは、ブレーカに接続された電線に
直接繋ぐこと内線規程上、違反となります。
タップを使用する場合は、必ず接続器
を介して施設してください。

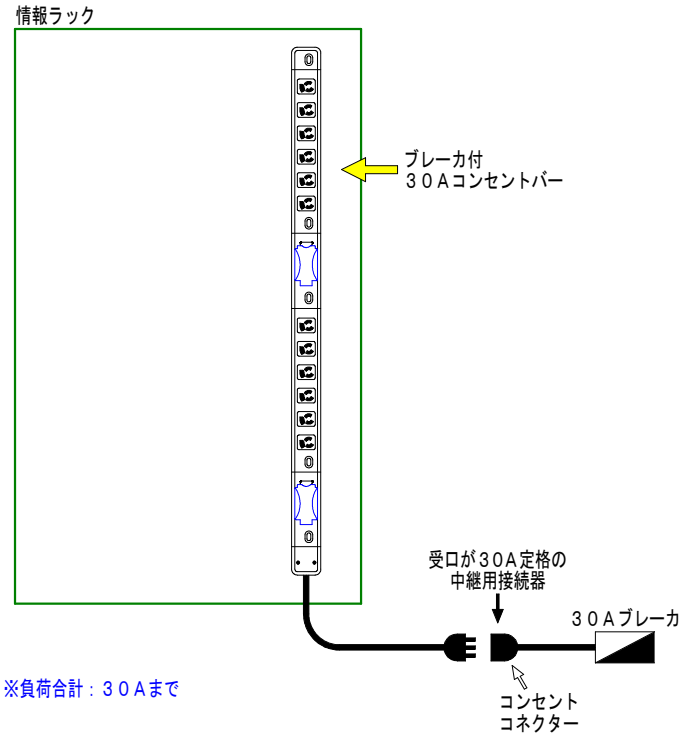
# ３０Ａ分岐回路の場合の施設例（3/3）



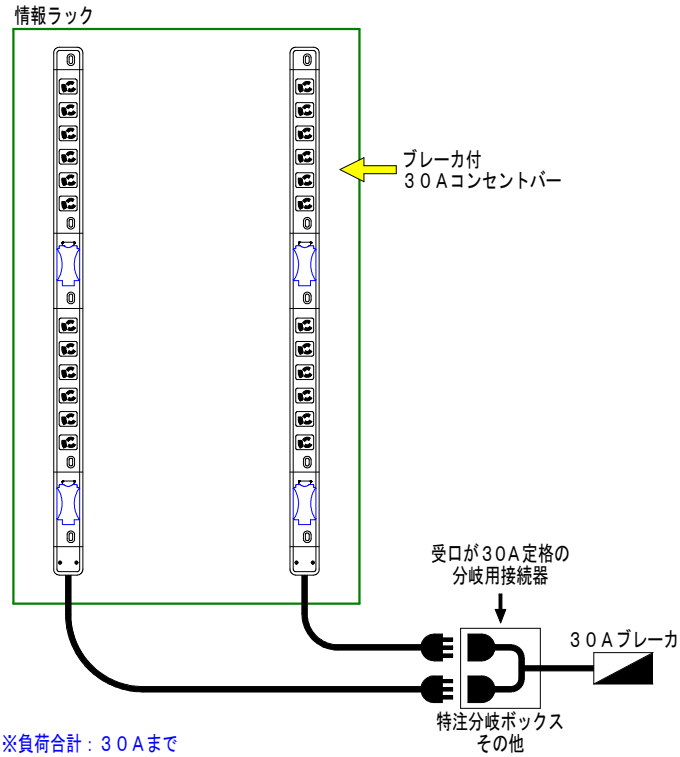

※負荷合計：３０Ａまで




※負荷合計：３０Ａまで

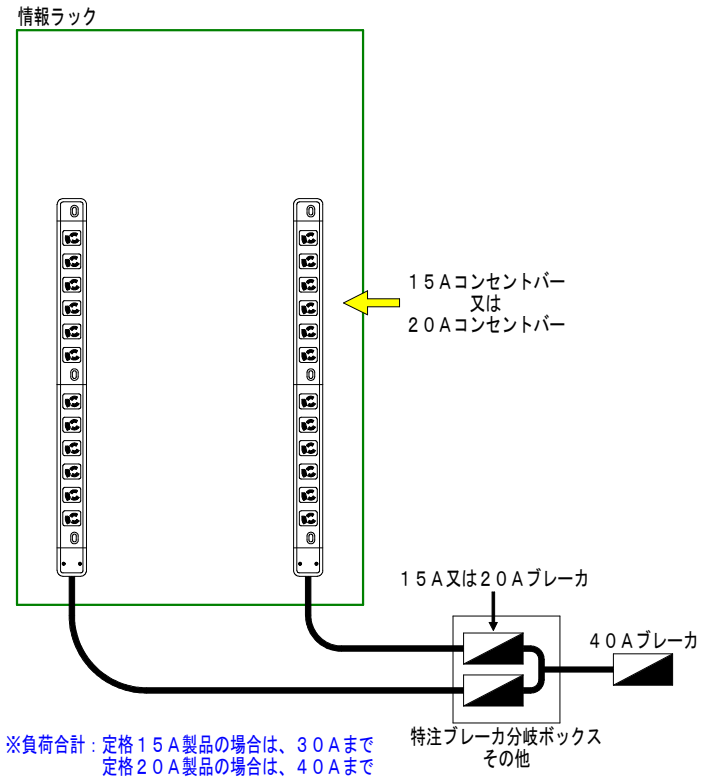



※負荷合計：３０Ａまで

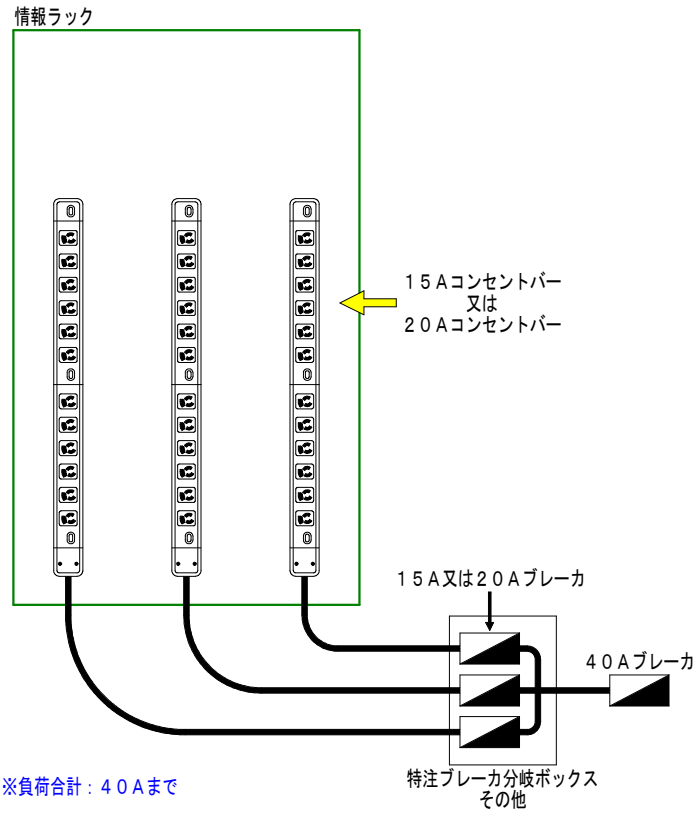



※負荷合計：３０Ａまで

# ４０Ａ分岐回路の場合の施設例（1/3）

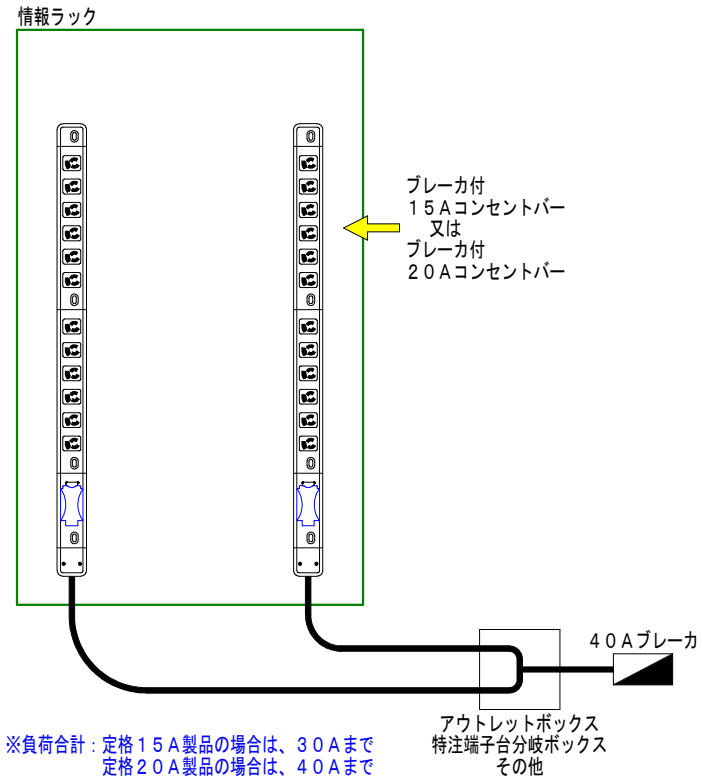



※負荷合計：定格１５Ａ製品の場合は、３０Ａまで
定格２０Ａ製品の場合は、４０Ａまで

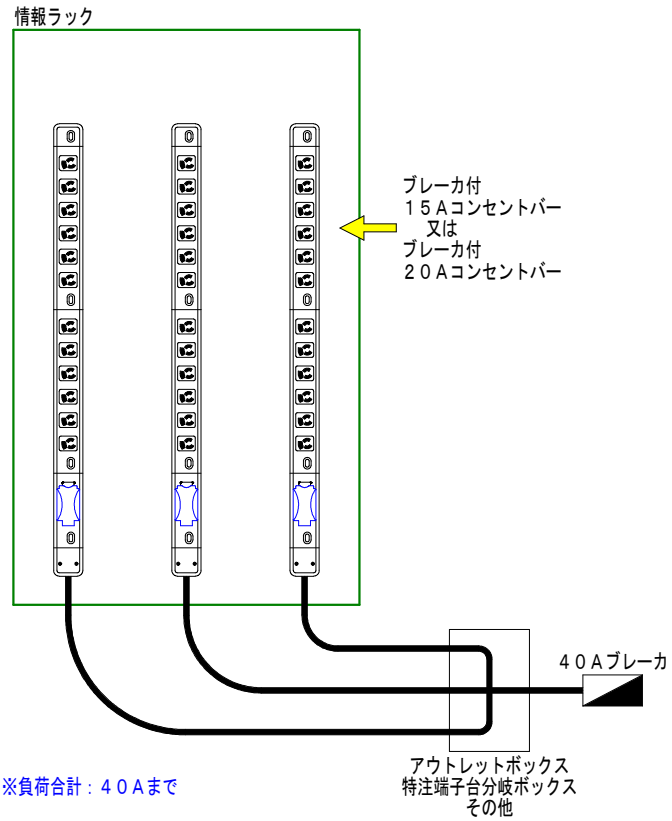



※負荷合計：４０Ａまで

【注意】法規により、ブレーカの付いていないラック用コンセントを施設する場合は、下記の分岐回路に接続して下さい。
- 製品本体の定格電流が１５Ａの場合・・・１５Ａ分岐回路または２０Ａ配線用遮断器分岐回路
- 製品本体の定格電流が２０Ａの場合・・・２０Ａ配線用遮断器分岐回路

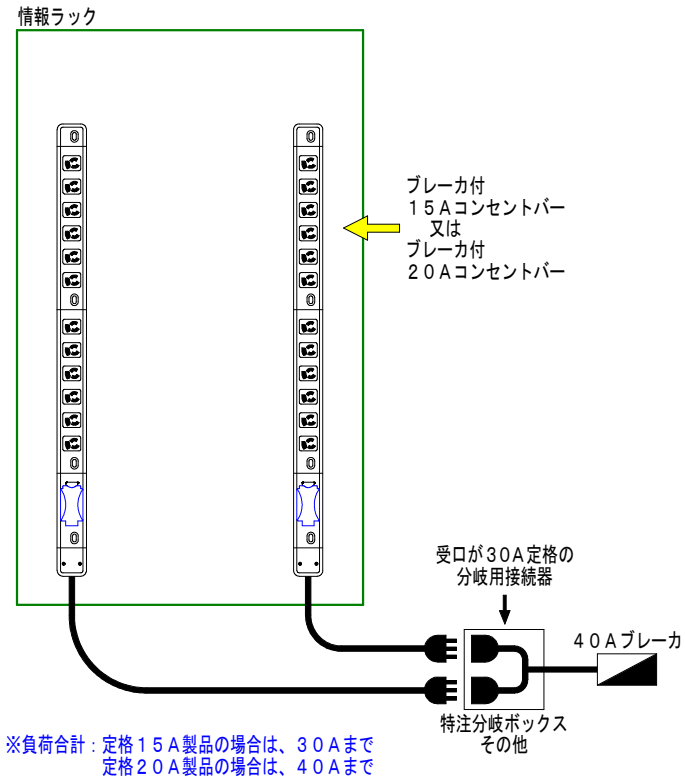



※負荷合計：定格１５Ａ製品の場合は、３０Ａまで
定格２０Ａ製品の場合は、４０Ａまで

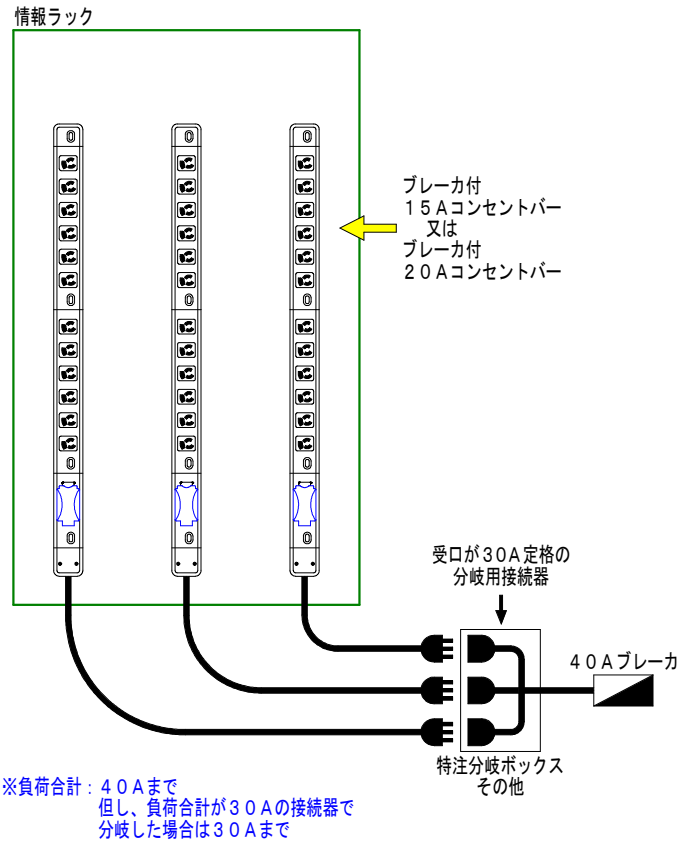



※負荷合計：４０Ａまで

# ４０Ａ分岐回路の場合の施設例（２/３）

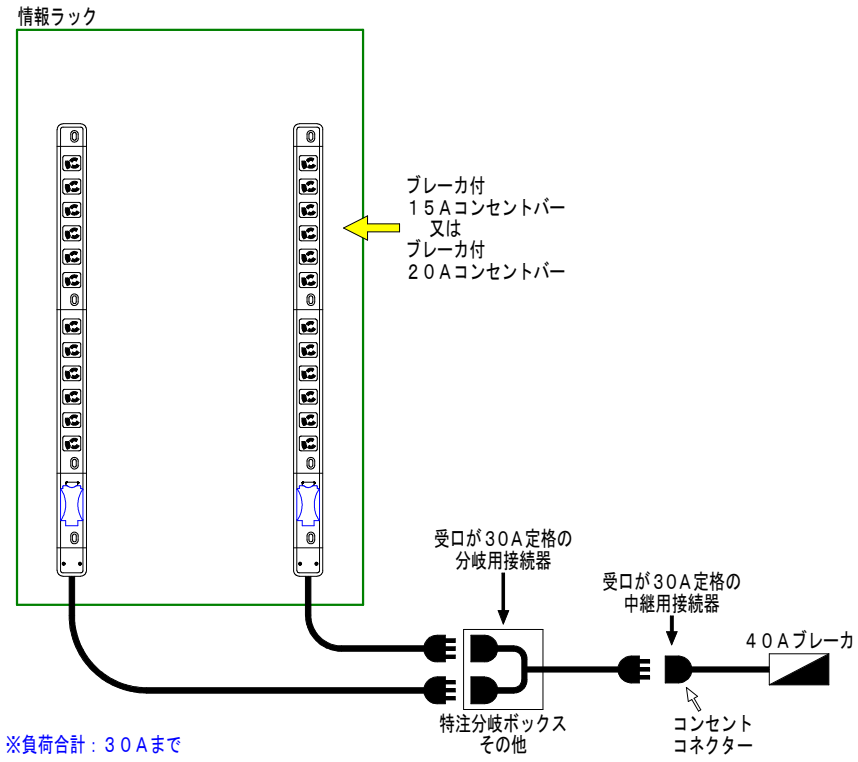



※負荷合計：定格１５Ａ製品の場合は、３０Ａまで
定格２０Ａ製品の場合は、４０Ａまで




※負荷合計：４０Ａまで
但し、負荷合計が３０Ａの接続器で
分岐した場合は３０Ａまで

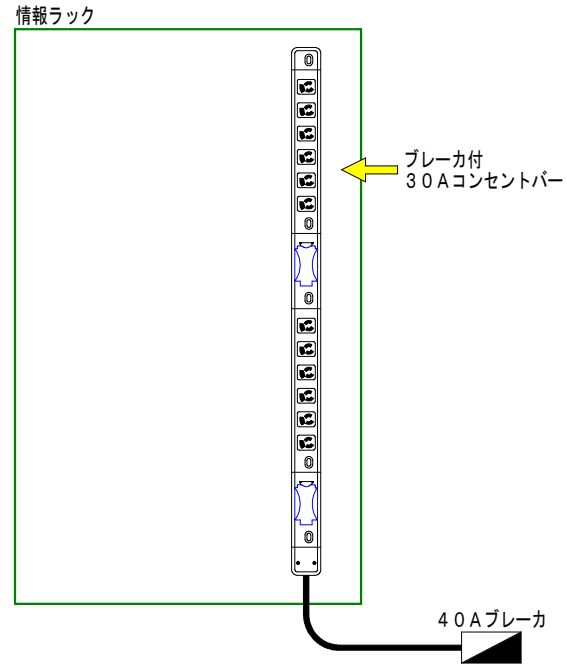
(注意)定格が３０Ａを超える受口を持った接続器は存在しません。
よって、受口が３０Ａの接続器を用いて分岐することになります。



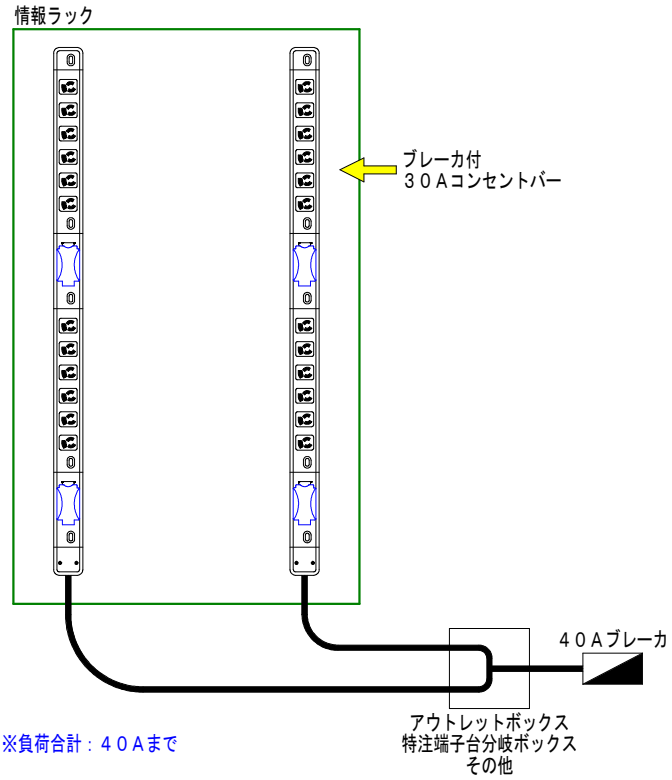

※負荷合計：３０Ａまで

(注意)定格が３０Ａを超える受口を持った接続器は存在しませんので、３０Ａ定格の接続器にて中継することになります。
よって、使用出来る負荷の合計が３０Ａまでとなります。

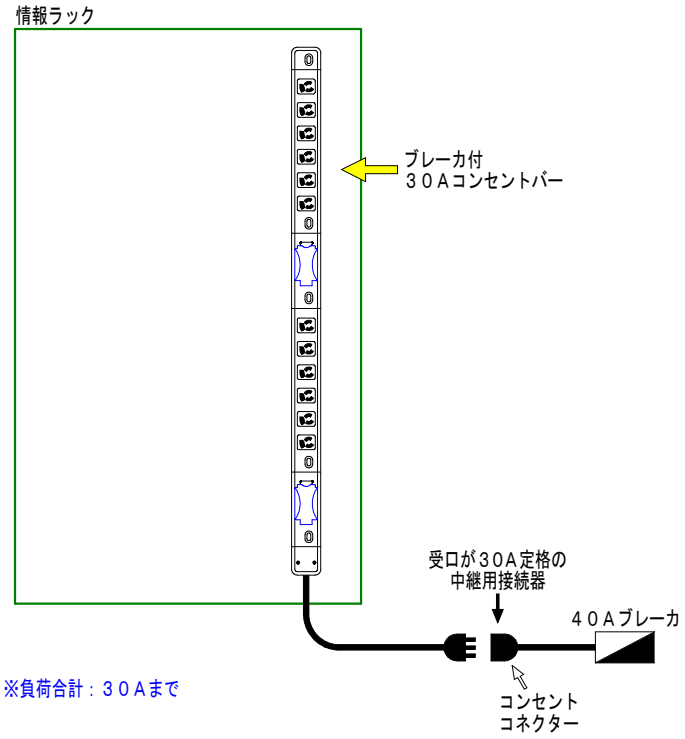
# ４０Ａ分岐回路の場合の施設例（3/3）



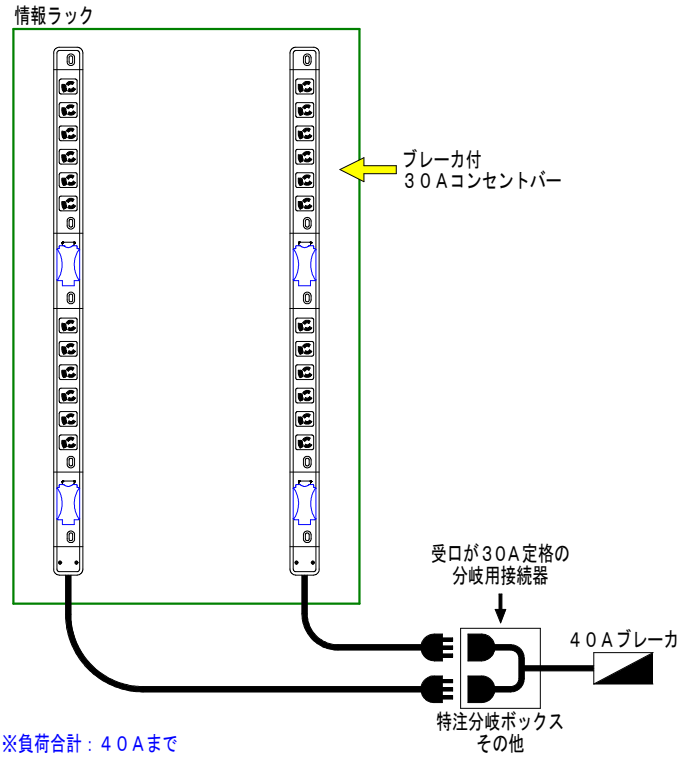

※負荷合計：３０Ａまで




※負荷合計：４０Ａまで



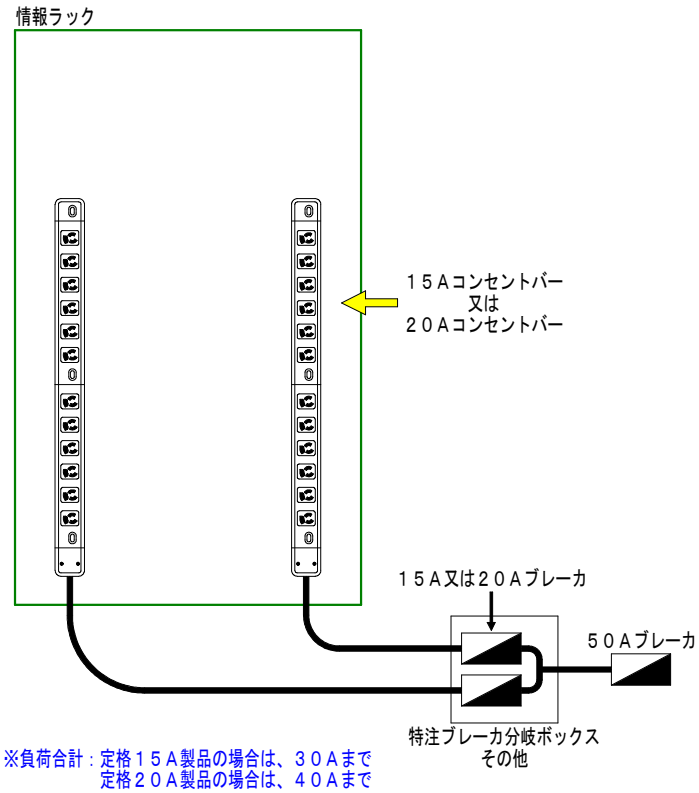

※負荷合計：３０Ａまで



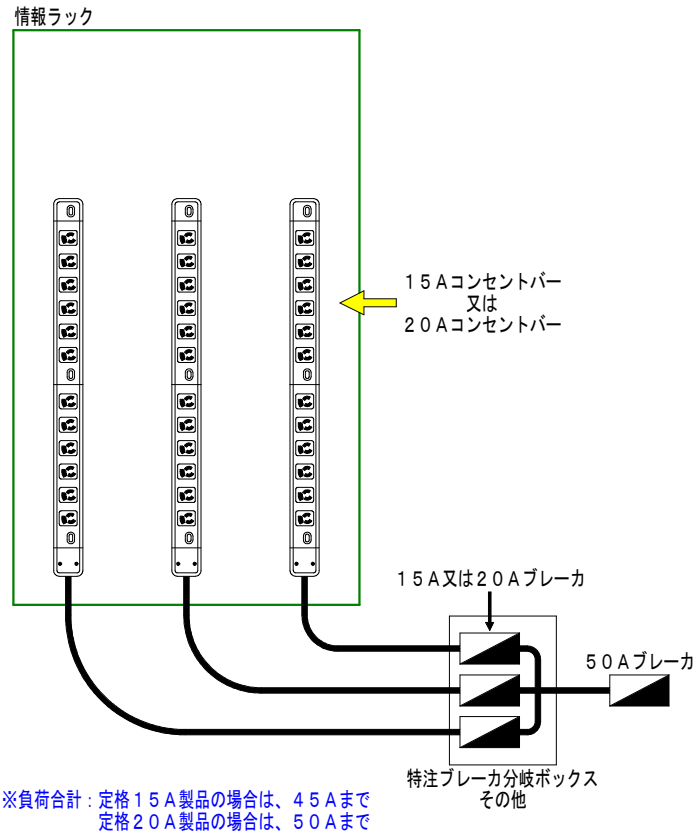

※負荷合計：４０Ａまで

(注意)定格が３０Ａを超える受口を持った接続器は存在しません。
よって、受口が３０Ａの接続器を用いて中継、または分岐することになります。

# ５０Ａ分岐回路の場合の施設例（1/2）



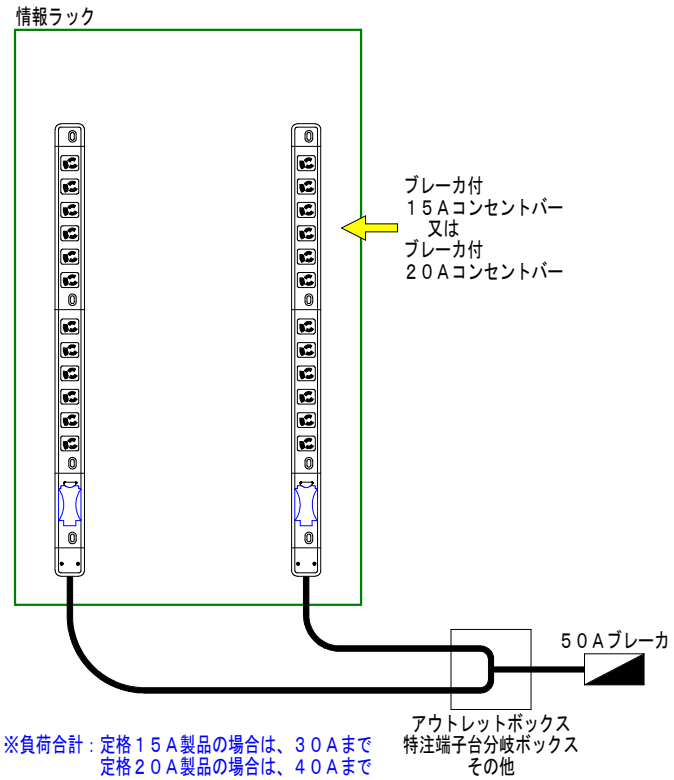

※負荷合計：定格１５Ａ製品の場合は、３０Ａまで
定格２０Ａ製品の場合は、４０Ａまで



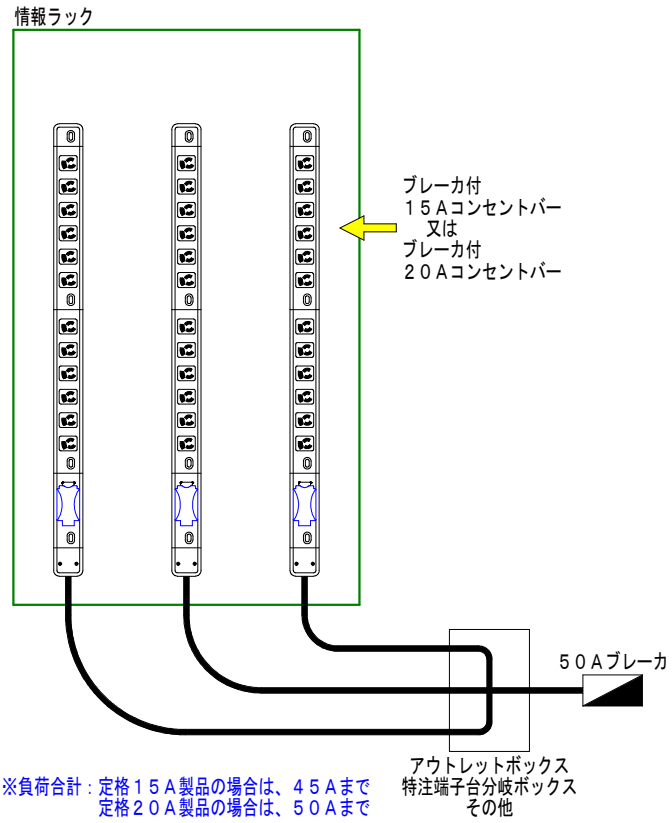

※負荷合計：定格１５Ａ製品の場合は、４５Ａまで
定格２０Ａ製品の場合は、５０Ａまで

【注意】法規により、ブレーカの付いていないラック用コンセントを施設する場合は、下記の分岐回路に接続して下さい。

- 製品本体の定格電流が15Aの場合・・・15A分岐回路または20A配線用遮断器分岐回路
- 製品本体の定格電流が20Aの場合・・・20A配線用遮断器分岐回路

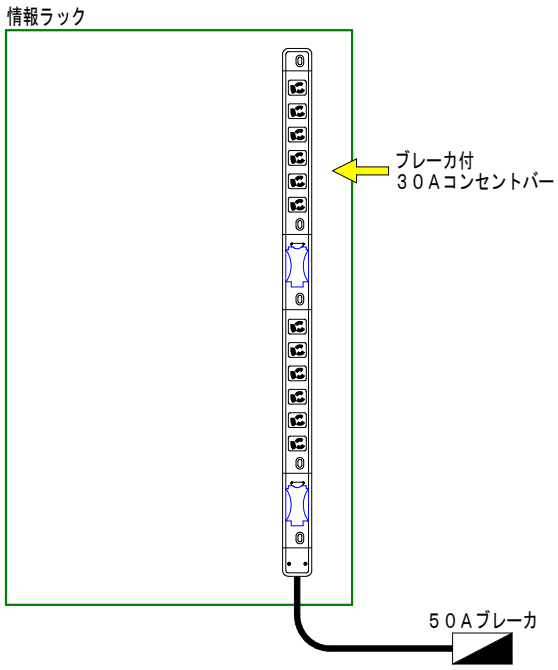



※負荷合計：定格１５Ａ製品の場合は、３０Ａまで
定格２０Ａ製品の場合は、４０Ａまで

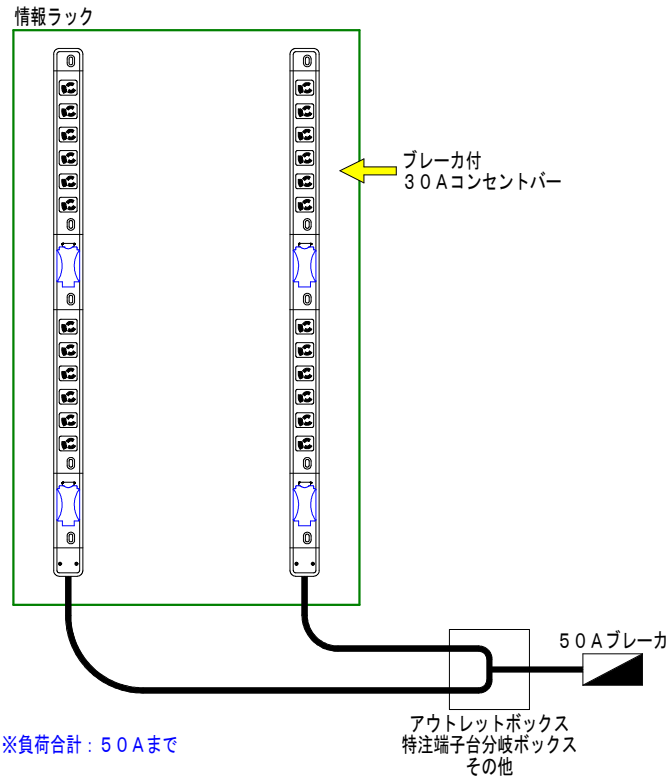



※負荷合計：定格１５Ａ製品の場合は、４５Ａまで
定格２０Ａ製品の場合は、５０Ａまで

# ５０Ａ分岐回路の場合の施設例（2/2）




※負荷合計：３０Ａまで




※負荷合計：５０Ａまで